

特定行為区分	創傷管理関連	時間	34
特定行為名	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 (B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法		
学ぶべき事項	(共通) 創傷管理関連の基礎知識	1. 皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖	
		2. 主要な基礎疾患の管理	
		3. 全身・局所のフィジカルアセスメント	
		4. 慢性創傷の種類と病態	
		5. 褥瘡の分類、アセスメント・評価	
		6. 治療のアセスメントとモニタリング（創傷治療過程、TIME理論等）	
		7. リスクアセスメント	
		8. 褥瘡及び創傷治療と栄養管理	
		9. 褥瘡及び創傷治療と体圧分散	
		10. 褥瘡及び創傷治療と排泄管理	
		11. DESIGN-Rに基づいた治療指針	
		12. 褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム	
		13. 感染のアセスメント	
		14. 褥瘡の治療のステージ別局所療法	
		15. 下肢創傷のアセスメント	
16. 下肢創傷の病態別治療			
17. 創部哆開創のアセスメントと治療			
(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	1. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的		
	2. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌		
	3. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク(有害事象とその対策等)		
	4. DESIGN-Rに準拠した壊死組織の除去の判断		
	5. 全身状態の評価と除去の適性判断（タンパク量、感染リスク等）		
	6. 壊死組織と健全組織の境界判断		
	7. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法		
	8. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法		
(B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法	1. 創傷に対する陰圧閉鎖療法の種類と目的		
	2. 創傷に対する陰圧閉鎖療法の適応と禁忌		
	3. 創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴うリスク（有害事象とその対策等）		
	4. 物理的療法の原理		
	5. 創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法		
	6. 創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴う出血の止血方法		
研修概要	(共通) 創傷管理関連の基礎知識	創傷管理の必要性を理解し、安全に創傷管理を実践できる看護師を養成する。	
	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	医師の指示の下、手順書により身体所見（血流のない壊死組織の範囲、肉芽の形成状態、膿や滲出液の有無、褥瘡部周囲の皮膚の発赤の程度、感染徴候の有無等）検査結果及び使用中の薬剤等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、鎮痛が担保された状況において、血流のない遊離した壊死組織を滅菌ハサミ（剪刃）、滅菌撮子等で取り除き、創洗浄、注射針を用いた穿刺による排膿等を行う。出血があった場合は、圧迫止血や双極性凝固器による止血処置を行う。	
	(B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法	医師の指示の下、手順書により身体所見（創部の深さ、創部の分泌物、壊死組織の有無、発赤、腫脹、疼痛等）、血液検査結果及び使用中の薬剤等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、創面全体を被覆材で密封し、ドレナージ管を接続し、吸引装置の陰圧を設定、モード（連続、間欠吸引）選択を行う。	
到達目標	1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去ができるようになる。		
	2. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、創傷に対する陰圧閉鎖療法ができるようになる。		
	3. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。		
	4. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。		
	5. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。		
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト		
	OSCE：評価表を用いた観察評価		
	試験：eラーニング上もしくは集合で実施		
研修内訳	講義（34時間）	視聴時間45分＋講義確認テスト15分	
	OSCE（1時間）	OSCEはシラバスの時間に含めておりませんが、教材としてご利用ください	
	試験（任意）	試験は指定研修機関ごとに時間・設問数など設定してご利用ください	

	学ぶべき事項	講師	所属	研修方法	通番
(共通) 創傷管理 関連の基礎知識	皮膚、皮下組織(骨を含む)に関する局所解剖、主要な基礎疾患の管理、全身・局所のフィジカルアセスメント	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	1
	慢性創傷の種類と病態、褥瘡の種類、アセスメント・評価、治療のアセスメントとモニタリング(創傷治療過程、TIME理論等)	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	2
	リスクアセスメント、褥瘡及び創傷治療と体圧分散、褥瘡及び創傷治療と排泄管理	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	3
	褥瘡及び創傷治療と栄養管理	田村 佳奈美	福島学院大学 食物栄養学科講師	講義	4
	DESIGN-Rに基づいた治療指針	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	5
	褥瘡及び創傷の治療のアルゴリズム、褥瘡の治療のステージ別局所療法	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	6
	感染のアセスメント	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	7
	下肢創傷のアセスメントと病態別治療(1)	寺師 浩人	神戸大学医学部形成外科学教室 教授	講義	8
	下肢創傷のアセスメントと病態別治療(2)	寺師 浩人	神戸大学医学部形成外科学教室 教授	講義	9
	下肢創傷のアセスメントと病態別治療(3)	寺師 浩人	神戸大学医学部形成外科学教室 教授	講義	10
	下肢創傷のアセスメントと病態別治療(4)	寺師 浩人	神戸大学医学部形成外科学教室 教授	講義	11
	創部略開創のアセスメントと治療	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	12
(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的(1)	榊原 俊介	兵庫県立がんセンター 形成外科	講義	13
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的(2)	榊原 俊介	兵庫県立がんセンター 形成外科	講義	14
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌(1)	木下 幹雄	TOWN訪問診療所 院長	講義	15
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌(2)	木下 幹雄	TOWN訪問診療所 院長	講義	16
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク(有害事象とその対策等)(1)	寺部 雄太	東京西徳洲会病院 形成外科	講義	17
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク(有害事象とその対策等)(2)	寺部 雄太	東京西徳洲会病院 形成外科	講義	18
	DESIGN-Rに準拠した壊死組織の除去の判断	丹波 光子	杏林大学医学部付属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師/特定行為修了看護師	講義	19
	全身状態の評価と除去の適性判断(タンパク量、感染リスク等)(1)	寺部 雄太	東京西徳洲会病院 形成外科	講義	20
	全身状態の評価と除去の適性判断(タンパク量、感染リスク等)(2)	寺部 雄太	東京西徳洲会病院 形成外科	講義	21
	壊死組織と健常組織の境界判断(1)	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	22
	壊死組織と健常組織の境界判断(2)	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	23
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法	木下 幹雄	TOWN訪問診療所 院長	講義	24
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法(1)	榊原 俊介	兵庫県立がんセンター 形成外科	講義	25
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法(2)	榊原 俊介	兵庫県立がんセンター 形成外科	講義	26

(B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法	創傷に対する陰圧閉鎖療法の種類と目的	大浦 紀彦	杏林大学医学部 形成外科 教授	講義	27
	創傷に対する陰圧閉鎖療法の適応と禁忌、伴うリスク（有害事象とその対策等）	大浦 紀彦	杏林大学医学部 形成外科 教授	講義	28
	物理的療法の原理（1）	小川 令	日本医科大学付属病院 形成外科・美容外科 主任教授	講義	29
	物理的療法の原理（2）	小川 令	日本医科大学付属病院 形成外科・美容外科 主任教授	講義	30
	物理的療法の原理（3）	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	31
	創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法（1）	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	32
	創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法（2）	加瀬 昌子	地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院 特定看護師	講義	33
	創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴う出血の止血方法	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	34
創傷管理（A）	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	OSCE	-
創傷管理関連 科目修了試験				試験	-